第 11 号（令和８年度 第３号）

やすづかこふんぐん 安塚古墳群 発掘だより

2026.11.19

«10 月 10 日（土）に現地説明会を開催しました！»

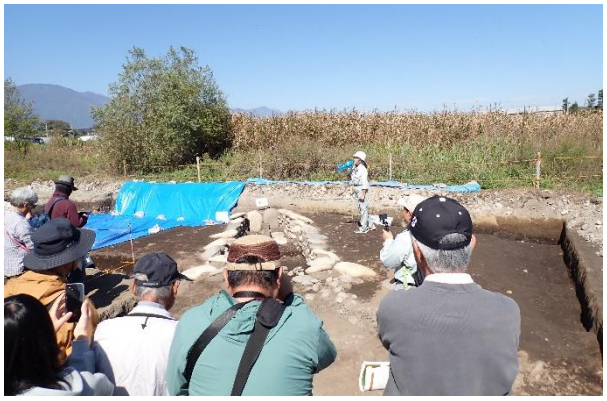


地元の皆様をはじめ、148 名の方にご見学いただきました。誠にありがとうございました。

当日は、本年度調査を行った、第 12・14・17・18 号古墳から出土した遺物の展示と、第 17・18 号古墳をご覧いただきました。本号では第 14 号古墳の遺物と第 17・18 号古墳の調査状況についてご紹介いたします。第 12 号古墳については、前号をご覧ください。



安塚古墳群　調査区遠景（西から撮影）



現地説明会当日の様子（第 17 号古墳）

▶第 14 号古墳出土遺物 ―コップ形の須恵器

第 14 号古墳は、令和 5（2023）年度に長野県埋蔵文化財センターの確認調査でみつかった古墳です。

石室は長さ約 2.7m、幅約 0.8mと比較的小規模で、墳丘（古墳の盛り土）は現存しないものの、石室の西側に周溝（古墳の周りを囲む溝）と考えられる溝状の遺構が確認されました。

第 14 号古墳から出土した遺物はあまり多くはありませんが、コップ形の珍しい須恵器がみつかっています。この形をした須恵器は全国的にも希少で、都城跡や国府跡といった役所に関する遺跡や、寺院跡、窯跡などからみつかることはあるようですが、古墳から出土した事例は大変珍しいようです。

また同じ形をした須恵器の中には底に「二合半」や「三合一夕」といった計量に関わる墨書が書かれているものがあり、枡のように使っていたのではないかと考えられています。第 14 号古墳から出土したものには墨書がなく、使い方についてははっきりしませんが、こうした珍しい須恵器が安塚古墳群の古墳からみつかったことは興味深く、今後も類例と比較しながら考えていきたいと思います。

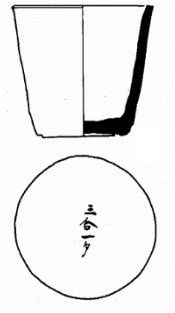
（参考：井上尚明 1994「コップ形須恵器の考察」『考古学雑誌』79-4）



第 14 号古墳石室



コップ形の須恵器（第 14 号古墳）



「三合一夕」墨書のあるコップ形の須恵器
（平城京出土 奈良市教育委員会 1988）

▶第 17 号古墳の調査状況

第 17 号古墳は、本年度の調査で新たに確認された古墳です。石室の規模は、長さ約 6.0m、幅約 1.5mです。墳丘などの上部構造は失われていますが、石室は比較的よく残っていました。石室内からは長頸壺などの須恵器のほか、奥壁近くから骨が出土しています。現在も石室内やその周囲の調査を進めており、石室の構造や特徴を詳しく調べています。今後の調査成果も、どうぞお楽しみに！



第 17 号古墳調査状況



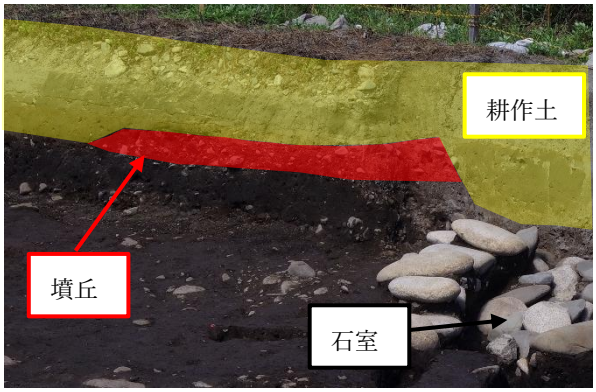
長頸壺出土状況

▶第 18 号古墳の調査状況

第 18 号古墳は、本年度の調査で新たに確認された古墳です。石室の幅は約 2.3m に及ぶことがわかりました。石室の一部が道路用地外へ続いているため全長を測ることはできませんが、安塚古墳群のなかでも最大級の石室だった可能性があります。また、第 18 号古墳では、これまで安塚古墳群で確認できなかった墳丘がみつかりました。石室だけではわからなかった古墳の全体像を考えるうえで重要な発見となりました。



第 18 号古墳調査状況



第 18 号古墳に確認できる墳丘の様子

«調査はまだまだ続きます・・・»

第 17・18 号古墳では、現在も発掘作業を進めています。これから石室内の調査が進むなかで、どのような遺物がみつかるのか、古墳がつくられた時期やつかわれ方について何がわかるのかも、今後の調査のポイントです。さらに、当時、新村地区に広がっていた古墳群のなかで、これらの古墳がどのような特徴をもち、ほかの古墳とどのような前後関係にあるのかも調べていきます。今後の調査成果にも、ぜひご注目ください！

令和８年度一般国道 158 号（松本波田道路）改築に伴う発掘調査　松本市安塚古墳群
発掘だより第 11 号（令和８年度第３号）
長野県埋蔵文化財センター
〒388-8007　長野市篠ノ井布施高田 963-4　　電　話：026-293-5926
担　当：水科・小山
支援業務：㈱アコード　星/菅原/田邉/門田
メール：maibun@naganobunka.or.jp　　H　P：https://naganomaibun.or.jp

